ヨコハマ市民まち普請事業

整備事例集 vol.6

平成 23 年度整備事例集

ふ-しん【普請】「普く請う（あまねくこう）」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民のみなさんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることに繋がっていきます。「まち普請」には市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

私たちのまちを　私たちでつくる
もっとまちが好きになる

まち普請事業についてはホームページをご覧ください。 まち普請 検索

ヨコハマ市民まち普請事業
整備事例集 vol.6
［平成23年度整備事例集］

●発行　平成24年10月
横浜市都市整備局都市づくり部地域まちづくり課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1　TEL 045-671-2679　FAX 045-663-8641
●編集・デザイン　特定非営利活動法人 アクションポート横浜

まち普請

あちこち・ドキドキ・ハマのまち 都市整備局

ヨコハマ人・まち ～きれいなまちをつくる～

身近なまちづくりに役立つ無料のメールマガジン「ヨコハマ 人・まち」を読みませんか？

メールマガジンについてはホームページをご覧ください。 ヨコハマ　人・まち 検索

ヨコハマ市民まち普請事業
整備事例集 vol.6

CONTENTS

1 事業のあらまし

2 整備事例1 本牧山頂公園里山あそびプロジェクト（中区）

3 整備事例2 美しが丘第六公園集会所建設整備計画（青葉区）

4 整備事例3 初黄・日ノ出町地区に集いの広場を！階段広場をつくる（中区）

5 提案が《かたち》になるまで

事業のあらまし

「ヨコハマ市民まち普請事業」は、横浜市地域まちづくり推進条例に基づく支援策の一つとして、平成17年4月に始まり、平成24年4月で8年目を迎えました。

この「ヨコハマ市民まち普請事業」とは、市民の発意とアイデアによる身近な地域の公共空間や私有地などの整備に関するまちづくりの提案を募集し、2回にわたる公開コンテストにより選考された提案に対して、最高500万円の整備助成金を交付する制度です。整備場所又はその近くの在住者、事業者または土地・建物の所有者の、3人以上のグループであれば誰でも応募することができます。平成18年度から整備が始まり、平成23年度に整備を終えた3事業を加えると、平成23年度までに29事業の整備が完了しました。

今回ご紹介するのは、平成22年度に選考され、平成23年度末（平成24年3月）までに整備を完了した3つの事業です。平成22年度に実施した一次コンテストには、8件の提案の応募があり、このうち5件の提案が一次コンテストを通過し、平成21年度の二次コンテストで次回一次コンテスト免除となった1提案をあわせた6件のうち、二次コンテストでは4件が整備対象提案に選考されました。

この事例集では、この4件の提案のうち整備が完了した3つの提案について、コンテストへの参加に至った経緯、提案が完成するまでに、提案グループのメンバーや地域の方々が積み重ねてきた試行錯誤や工夫の様子、完成した施設などをご紹介します。また、整備を進める上で行政や専門家の支援の経過をご報告させていただきます。

（二次コンテストを通過した提案のうち、「長津田の樹木を利活用したアートワークプロジェクト」については、まち普請事業の助成対象の整備は完了しましたが、作成した壁面レリーフを設置する建築物の完成が24年度末であるため、今回の事例集には掲載していません。）

平成22年度 横浜市地域まちづくり推進委員会 ヨコハマ市民まち普請事業部会

卯月　盛夫	早稲田大学教授（建築・都市デザイン）
河上　牧子	慶應義塾大学産業研究所共同研究員（都市政策・コミュニティ計画）
木下　勇	千葉大学教授（緑や子どもの環境のデザイン）
嶋田　昌子	NPO法人横浜シティガイド協会理事（まちづくりNPO）
末永　浩之	公募市民
轟木　ひろ子	国際草の根交流センター　事務局次長
名和田　是彦	法政大学教授（公共哲学・コミュニティ論）
吉田　正臣	公募市民

事業の流れ（平成22年度）

整備事例1　本牧山頂公園里山あそびプロジェクト

完成した雨だれデッキ

「本牧山頂公園」は、米軍接収跡地に造られた都市公園です。提案グループのメンバーは、この公園に多くの思いを抱いてきました。

「ここに、思い切り自然遊びが体験できる里山を作りたい」そんな思いを大切にしながら、計画作りが始まりました。話し合いを重ね、まずは、原っぱ部分を拠点として自然循環に不可欠な水場と子どもを中心に人々が集う場を作ることになりました。そして、生まれたのが「雨だれデッキ」です。

この雨だれデッキ、一番下の地中には、雨水をためる貯水タンクがあります。その上にデッキが、そして、デッキの上にはパーゴラが設置されています。くつろぐ空間と雨水をためる施設を一体的に整備しています。屋根に降った雨を貯留する施設は多いのですが、デッキに降った雨を直接ためる施設は珍しいそうです。貯留タンクにたまった水は、手押しポンプにつながっていて、そこでくみ上げられた水は、泥んこ遊びができる広場へと流れていきます。

計画は、細かいところまでこだわり、ワークショップも開催しました。パーゴラの位置をきめるのに、8人の人が8本の柱の位置に立ち、移動しながら、あちこちどこに建てるか検討したそうです。また、この柱の足元には、半円形の小さなデッキが外に張り出しています。メンバーが《ちゃぶ台》と呼ぶ代物。一人でも、二人でも、訪れるさまざまな人がゆっくり休める場にする工夫だそうです。工事で出た石を使い、生物の生息場所としての石垣塚も作りました。

このデッキ、良く見ると真ん中部分には、パーゴラがありません。これ、実は予算が限られていたために、真ん中のパーゴラを省いたそうです。「でもこれが良かった」とメンバーのひとりがおっしゃっていました。

完成と同時につくられた、「本牧山頂公園里山憲章」には、「この公園は、作り続けていく公園です。ひとのかかわりと豊かな自然が調和する里山づくりを試みます。関わる一人一人、遊ぶ一人一人が作り手です。」とあります。今後の本牧山頂公園、どのような里山になっていくのか、ほんとうに楽しみですね。

本牧山頂公園里山あそびプロジェクト（中区）整備概要

整備主体：本牧山頂公園和田山地区地域連絡会
整備場所：中区和田山1－5
整備内容：雨だれデッキ（パーゴラ、デッキ、雨水貯留タンク、手押しポンプ）道具庫、かまど、石垣塚他
竣工時期：平成24年3月

access map

広場の全景

水をくみ出す手押しポンプ

ポンプを使って遊ぶ子どもたち

整備事例2　美しが丘第六公園集会所建設整備計画

集会所全景

美しが丘西部自治会では、これまでは集まる場所がないために、班長会は地域内のお店をお借りして開催し、総会は公園で行っていたそうです。今回、建設された「美しが丘第六公園集会所」は、そんな地域の30年来の悲願でした。そのための積み立ても行い、いよいよ本格的な計画作りをするために、建設委員会が組織されたのは、2009年5月でした。そして、このまち普請に応募しましたが、1次コンテストまでに、建設委員会7回、役員会は50回も開催したそうです。その甲斐あって、1次コンテストは満票で通過。その後、懇談会で出された、ブランコの移設などのアドバイスを活かしてまとめた提案は、2次コンテストを無事通過、いよいよ建設が始まりました。

この集会所のコンセプトは、「地域の茶の間」。茶の間のだんらん的な集会所をめざしたそうです。

まずは、交流の場である公園と一体感のある施設にするため、公園に向かって広い開口部を取りました。そして、地形を活かした新しい遊びの空間として、東屋から公園内の小高い場所に建てられた集会所まで回遊できる、園路も設置しました。この園路の植栽や、竹で作った階段などは、みな手づくり。集会所の基礎の土工事も経費削減のために、住民ですべて行ったそうです。そして、子どもたちも、絵タイルを製作し設置するなどして参加しました。

建築は、限られた空間を有効利用するため、集会室の屋根裏空間を収納庫として利用し、周辺の方々のニーズにこたえて防災のための設備も設けました。

建設にあたり、公園利用者や住民にアンケート調査を行い、計画の時から、住民への配慮と完成後の管理運営について検討を重ねたそうです。その回答で寄せられた協力の申し出は、20数名もいらしたそうです。愛称も公募で決定。応募された69の愛称案の中から「平津SUNサロン」に決まりました。

この「平津SUNサロン」これからどのような交流が育まれていくのか、とっても楽しみですね。

美しが丘第六公園集会所建設整備計画（青葉区）整備概要

整備主体：美しが丘西部自治会建設委員会役員会
整備場所：青葉区美しが丘3丁目
整備内容：集会所及び公園内回遊路（アプローチ斜路、倉庫、防災備蓄庫、フェンス、手すり、植栽等）
竣工時期：平成23年10月
access map

集会所へ向かう回遊路

集会所の収納庫

集会所内

整備事例3　初黄・日ノ出町地区に集いの広場を！階段広場をつくる

入り口から高架下広場を望む

今回整備場所となった京浜急行の高架下は、以前違法風俗街があった場所で、整備前は、決して安全とは言えない、一般の人が通れないようなところでした。

この地域では、そんなイメージを払拭しようと、警察、市、大学と連携したまちづくりが進んでいます。その一環で開催したまちの将来像を考えるワークショップでは、この地域には、もともと住民が集うことができるような広場や公園がほとんどないこともあり、「集いの広場が必要」という声が多く出されました。ここから「階段広場」の計画づくりが始まりました。

この「階段広場」は、オープンなステージの上に木で組まれた階段が設置された構造となっていますが、この「階段」により、にぎわいが創出されているそうです。

演劇が上演され、イベントやバザール（ナイトバザールもあるそうです。）、そして、野菜の販売を行う朝市も定期的に開催されています。ときには、朝市で売れ残った野菜を材料に食事をつくり、夜、販売したりもするそうです。演劇では、階段をステージとする演目も上演されました。広場を舞台にした場合は、階段が、ステージを上から望む観客席に変わります。夜は、NPO団体の協力で、安全のために動きのある映像を流しています。

工事でも工夫を重ねました。経費削減のため、できるだけ工程を少なくし、材料などにも無駄が出ないような設計にしました。施工では、階段や床が木造のため多くの塗装が必要でしたが、地域の住民や参加するメンバーでこの塗装を行いました。

「ここは、まちの人たちがみんなで造りました。多くの方たちが関わってくれたおかげで、まちづくりのさまざまなおもしろい動きが出てきていて、設計者として感動しています。」とはこの階段を設計した石田さんの言葉。まちづくりは、やはり「地域の人々」が主役ですね。

「安心・安全のまちづくり」から生まれたこの「階段広場」。今では、朝は犬の散歩道、通学路になり、昼は子どもの遊び場、そして、夜もなんだか人がいるというような場所になっています。

以前の環境とは一変した、この「階段広場のある高架下」ぜひ一度お越しください。

初黄・日ノ出町地区に集いの広場を！階段広場をつくる（中区）整備概要

整備主体：初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会チームひろば
整備場所：中区黄金町1丁目
整備内容：階段広場（木製階段、木製ステージデッキ、プロジェクター、照明等）
竣工時期：平成23年8月
access map

階段広場を使った集会

設置されているプロジェクター

提案が《かたち》になるまで

登録から活用運営までの流れ

相談・事前登録 → 応募 → 一次コンテスト → 活動懇談会 → 二次コンテスト → 通過 → 整備 → 活用運営

相談・事前登録

・まちづくりのアイデアが浮かんだら、まずは相談してみましょう。いつでも、市の担当者から、まち普請事業の詳細や応募の要件、今後の進め方などのアドバイスを受けることができます。

・応募を検討している方は、事前登録をすることができます。事前登録をすると、まちづくりの専門家の派遣を無料で受けることができます。

（事前登録は、整備提案の応募を義務付けるものではありません。）

応募

最初に出していただく応募は簡単。いわゆる設計図ではありません。地域で取り組んでみたい施設整備のアイデアがあれば大丈夫です。

☆まち普請では、2回の公開コンテストにより、整備提案の内容の審査が行われます。

一次コンテスト

一次コンテストでは、提案者が作成した提案説明パネルを使って、審査委員と一般の参加者に提案を説明していただきます。審査委員と提案者との質疑応答、審査委員どうしの議論を経て、審査委員の投票により通過する提案が決定します。ここでは、「創意工夫」「意欲」「公共性」などの観点で審査します。

★一次コンテストを通過したグループは、二次コンテストに向けて、具体的な計画作りに取り組みます。

二次コンテスト

二次コンテストでは、一次コンテストを通過した各グループから、提案の実現に向けた具体的な計画を発表していただきます。発表は、説明用パネルだけではなく、パソコンを利用した映像や模型、ときには子どもも参加した寸劇など、それぞれのグループから工夫を凝らした発表が行われます。審査の方法は一次コンテスト同様ですが、二次コンテストでは、「創意工夫」「実現性」「公共性」「費用対効果」「地域まちづくりへの発展性」の5つの基準で審査を行います。

整備の実現

これまで培ってきたノウハウや仲間とのつながりなどを活かしてみんなで整備します。地域の小中学校、高校などに、事業に参加していただく場合も多くあります。

活用運営

整備が終わった後も、維持管理、活用・運営などを通じてまちづくりの輪を広げていただきます。

提案グループへの支援の内容

市は、専門家の派遣、活動資金の交付など、技術的、資金的支援などを様々な形で行っています。

●事前登録した方々への支援

整備提案グループとして登録すると、提案内容やグループの意見をまとめたり、申請書類の書き方、技術面のことなどのアドバイスをしてくれる、まちづくりの専門家（まちづくりコーディネーター）の派遣を無料で受けることができます。

●一次コンテストを通過したグループへの支援

・資金や技術的な支援

最高30万円の活動助成金を受けることができます。この費用は、専門家の支援や広報資料の作成などに使うことができます。市から、専門家の紹介を受けることもできます。

・提案検討会

二次コンテストに向けて提案の実現性を高めるため、グループ内外の関係者が参加し話し合いを行なう「提案検討会」を提案グループに開催していただきますが、市は関係機関に参加を呼びかけるなど、その開催を支援します。

・活動懇談会の開催

計画づくりの途中段階では、提案グループと審査委員、関係団体、まち普請事業のOB（経験者）との意見交換をする場、「活動懇談会」を開催しています。二次コンテストに向けた具体的、実践的なアドバイスを受けることができます。

●二次コンテストを通過したグループへの支援

最高500万円の整備助成金を受けることができます。この費用は、設計・工事費・工事監理費・活動経費として使うことができる費用です。

●落選しても、市の協力で実現した提案もあります！

平成20年度に千代崎川の歴史を残す会から提案された、「千代崎川の碑作製と震災復興橋の一部保存」は、残念ながら二次コンテストを通過することができませんでした。しかし、その3年後、関係者の粘り強い調整の結果、下水道事業の一環として橋の欄干の一部を保存するモニュメントと歴史を説明する案内板が実現、地域のまちづくり活動が実を結んだ一例となりました。